

中川根ふる里通信

= 第41号 =

編集・発行 モアラブ中川根
連絡先 〒428-03
静岡県榛原郡中川根町上長尾
859-6
中川根ふる里通信係
TEL. 0547-56-0015
郵便振替口座 00270-4-81556



徳山水田のきょうぶの花
湿原も開拓されて昔の $\frac{1}{3}$ となっています

春から夏へ

ごよみ
ふる里

寒くて長かった冬

日本列島冷蔵庫に入つたもよう……暖地中川根も例外ではありませんでした。低温、少雨量、乾燥、山櫻の当地はめつたに雪は降りませんが、ヒーは何度かぶりました。三月になつてもいつ、うに春の訪れる様子もなく、木々の芽吹き、開花は例年より半月以上遅れました。

スキ・ヒノキの花粉は

スキ・ヒノキの人工林の多い里山です。年中変化がないと思われがちですが、スキは一月末から三月末頃まで、樹木が茶色に変わり、花が咲きます。ヒノキは四月頃です。

昨年の花粉はすごかったです。春霞み？山火事の煙のごとくスギは薄黄色に、ヒノキは白色の花粉を飛ばします。

昨夏の猛暑の割には、ことには花粉が少なかった。花粉アレルギーの方々にとっては、すこしやすいシーズンとなりました。



アオクサカムシ

カムシ大発生。



桜は見事に咲きました。

家山(川根町)の桜は県下に有名ですが、徳山地区の桜も、本数、種類とも多くすばらしいです。桃、桜、梅の植えられたリメイヨシノの並木、川根高校のしたれ桜も

お茶のこと。



夏も近づくハナハ夜、五月二日に新茶摘みをした家は数えるほどしかなかった。例年、四月下旬に始まり、ゴーレーデンウイークには最盛期、長く休みと有効活用してレジャーに走る車を尾目に茶處に生きているのだと皆自負してやまないこの季節。伸びない新芽にあせりといら立ちとおぼえたのは茶農家ばかりではなかった。と思いますが、十月を過ぎてようやく茶摘み本番となりました。二年続きた旱魃、雪の害、霜の害で、樹勢も弱り枯れてしまつた木、新芽の出ない木、早生種は新芽が焼けてしまつて減収。被害の少ない家でも一〇〇二〇%多い家では、半分以下と聞く。荒茶生産量が大きくダウンした為か、取り引き(買ひ取り)価額が高値だった事がせめてもの救いになつてゐるとの事ですが、様々な面への影響が今後出て来る、とは必然と言えます。

昭和五十四年四月二十日頃、かつて無い凍霜害に見舞れた川根地方、防霜ファン設置、湿潤温暖な気候にも恵まれて「もう、あの様な事は起きない」と思つていたのに、天災は、わずかにころにやつて来るの諺の真意的に驚くのみです。早く立ち直つていただきたいと願うと共に、茶摘みの最摘採期を今一度考えて、当地方



ホロジロ



ノビタキ



鳥たちのこと。

に会つた・中川根茶の一番おいしい茶摘み時と考え直した方が良様に思えます。

カワセミ



こととも、小鳥のさえずりがにぎやかに、わやかに聞こえる季節となりました。求愛、巣づくり、子育てといそがしく活動的な時をむかえています。鳴き声も様々で、コジュケイは“チヨットコイ、チヨットコイ”と、ホトトギスは“特許可局”コマドリは“ヒンカラカラ・ヒンカラカラカラ”。静岡県の鳥三光鳥は“ツキヒボシ(月日星・三光)ホイホイ、コノハズクは、ブッポーソー”と鳴くと言つう。シンシンノホセヨー”と聞こえる鳥は何という鳥だろうか。ふる里夜話の原田さんの静岡新聞寄稿と托卵について載せてみます。

「茶期に間に合つたホトトギスの初音」

ホトトギスが鳴くと茶の芽が硬くなると昔は言つた。ところが戦後やぶきた、という早生に近い品種に変わり、その上機械で摘採するため茶期が短くなつた。昔からの在来種は、早生から晩生まで種々雑多、それを手で摘んでいたから茶の期間が長かつた。

そのころのホトトギスはちぢれ茶期半ばころ茶の芽の硬くなるころに川根方面を訪れて“ホッショウ

ウツチャッタカ、ホッショウウツチャッタカ”と盛んに鳴く。“お茶しまつたか”と聞こえ、早く摘んじやえといつようだった。

茶の品種が変わり、摘採みが手から機械へ変わつてホトトギスがはるばる川根路へ来てくれるころには、

「オッチャオワッタカ……」

お茶が終つていた。ホトトギスが鳴くと茶が硬くなるという言葉は忘れられていた。しかし今年は違つた。冬から春への厳しい寒さで茶の発芽が遅れたため、ホトトギスの来訪が茶期に間に合つた。まだまだお茶が終らない五月中旬、ホトトギスの初音を聞いた。“あ、ホトトギスが来た。”と私はうれしかつた。ホトトギスはウグイスの巣へ卵を産み、育つひなはウグイスのひなを外へ突き落としてしまうという。ウグイスはホトトギスのひなを自分の子だと思って育てるという。あまりにもお人よりのウグイスが氣の毒で、空き巣狙いの泥棒みたいなホトトギスが憎らしが、幼い時からうれしい鳴き声は明るい初夏らしい声である。また夜鳴くホトトギスの声は情緒深いものがある。

「托卵のこと」



ホトトギス

自分で巣作りをせず、他の鳥の巣に卵を産み、育てさせる、ことを托卵と言います。

ホトトギス、カツコウ、がこの習性を持つてゐる。育つひなは二日ほど早く生まれ、やがて生まれてくる宿主のひなを巣から落してしまつと言う。

ホトトギスはウグイスなどに、カツコウはモズ、ホオジロ、セグロセキレイなど二十種以上の巣に托卵する。カツコウに托卵される鳥はしたいに对抗策を持つようになり、カツコウは宿主の卵に似せた卵を産むようになるなど、両者の関係は複雑である。カツコウは宿主の对抗策が進むと、托卵相手を変え、また新しい分布域を獲得していく。日本での托卵歴の長いオオヨシキリは、カツコウを激しく攻撃し、

ヤマセミ



卵を産み込まれると、自分の卵があつても巣を放棄してしまうことが多い。近年カラス科のオナガを托卵相手にする例があるという。が、オナガはまたカツコウあまり攻撃せず、卵を産み込まれても巣をすててしまうことはない。オナガ対カツコウの攻防戦の推移は、動物の行動の進化という観点から大いに注目されている。『自然大博物館』より』

人間の目や尺度で見ると、ホトトギスやカツコウが、とんでもない事をやっている様に見えるけれども、托卵された方も種は保たれている様だから、生態のバランスはとれているのかも知れません。が、にんげんが、この様な事をやつたら、とか生まれもつた性質、とか、考えたくないですね。

水のありがたさを感じる田植え期

一茶が終わり、新緑がまぶしい山村に田植えの季節がやって来た。あせ草が刈られ、田んぼに水が引かれ、カエルたちの合唱が始まった。この時期が来ると、ああ今年も夏がやって来るんだな」と、初夏のさわやかな風を全身に受け、心が浮き立つ。

私の地区は今から百五十年ぐらい前に先人たちのご苦労によって、大井川の水を引き入れ、二十ヘクタールの美田が生まれた。昨年の干ばつにも影響されず、豊作に恵まれたのも、この村が豊かな水に恵まれているおかげだ。普段は忘れがちな水のありがたさを強く感じるのもこの田植えの時期である。今年も秋の豊作を願い、豊かな水に感謝した。

椎野 紀代さん

地名地区

静岡新聞 読者の方より

ある里との係わり 静岡市在住 大井川 德山 由身

去る三月中頃のこと、新聞に何気なく目を通していると、本誌編集者 小沢節子さんの記事が目に飛び込んで来ました。勿論記事にも胸を打たれましたが、一見何んでもないご本人のスナップ写真が掲載されていました。私はそれが自宅の庭ではなく、自宅近くの大井川でカメラを持って立たゞむ姿であったことが、本誌の編集者としての情熱を強く感じ、痛く感動させられました。

思えば私の少年時代は、何故か山よりも川に魅せられたといつても過言ではありませんでした。近年上流に多くのダムが出来、水量は減少の一途を辿り、昔の面影は徐々に消え失せ、『大井の流れ水清く』と歌った懐しい母校の校歌も色あせてしまった感が致します。巷に見える砂利の山は工業立国の宝庫としての使命を帯び、越すに越されぬ大井川、は昔物語に過ぎなくなってしまったことです。

唯一つの救いと云えば過言ですが、夏場清流を求めて訪れる人々で河岸のキャンプ場が賑わうのは、昔と形は変わども大井川の自然の恵みが今なお人々の中に深く係わっている証明ではないでしょうか。

私は本川根の奥泉、中川根の藤川、徳山と幼少時代移り住みましたが、いずれも家と大井川とは極く近い距離にありました。だが、川に一段と憧憬深くなつたものと田ん

ます。

一口に大井川と云つても、源流から河口までは直線距離にして約一ロロキロメートル、実際の蛇行距離は約一五〇キロメートルにも及ぶといふのですから、私の係わつた大井川は、この全行程からすれば微かな“点”に過ぎません。しかし有難いものです。流石、冬だけは余りの寒さに敬遠しますが、春から秋に掛けては、魚探し、魚釣り、仕手釣り（夕方仕掛けで翌早朝上げに行く漁法）、砂遊び、堤防造り、川ぐみ取り、薪拾い（流木）、野球、そして水遊び（水泳）は庄巻でした。夏休みは正午頃中でも水遊び（水泳）は庄巻でした。夏休みは正午頃から夕方まで、ほとんど毎日出掛けました。

焼けつく陽射の中、毎日三、四時間もいるのだから背中の皮が夏休み中剥け続けることもあります。豪雨の後は鉄砲水となり、晴れ上りても何日も泳げないこともあります。岸へ泳ぎ切る、

かく、庄巻は校季にいとまがない程度です。さて、それには必ず二歳年下の弟も同行していました。

中でも水遊び（水泳）は庄巻でした。夏休みは正午頃から夕方まで、ほとんど毎日出掛けました。焼けつく陽射の中、毎日三、四時間もいるのだから背中の皮が夏休み中剥け続けることもあります。豪雨の後は鉄砲水となり、晴れ上りても何日も泳げないこともあります。岸へ泳ぎ切る、

かく、この大井川のお蔭で、私は貴重な体験をしました。幼少年期虚弱体质だった私が、一時期風邪も引かない位丈夫になりましたこと、又、高校時代結婚してから家族で海水浴プールに出掛け、子供達にも泳ぎのイロハが教えられたなどです。

話は一転しますが、今、町では“石の会”という趣味の会が結構盛んです。展示会もあちこちで催されています。勿論河原の石に若干の手を加え、色彩りをして台座を造ってその上に飾るのですが、数千円の値段で結構買ひ手がある様です。昔、石ころの上を歩き廻った自分を思うと一層今昔の感をいたかせます。

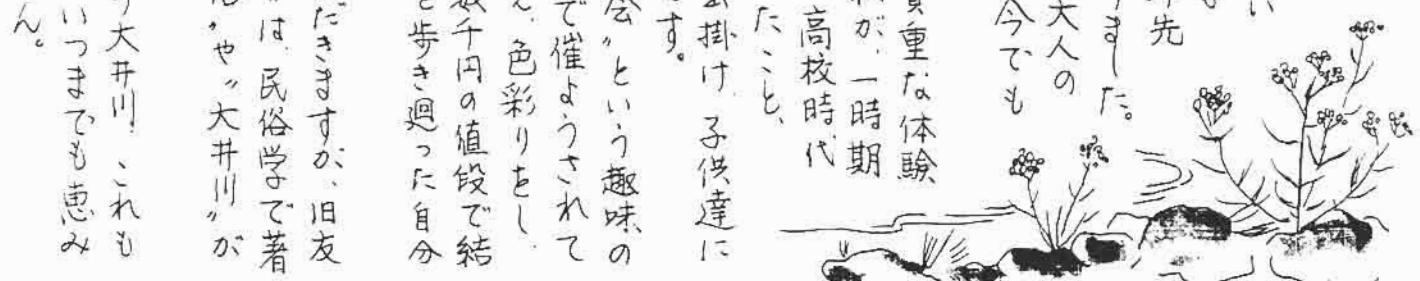
又、因縁の一つとして申し添えさせていたたきますが、旧友野本寛一氏（近畿大学教授、文学博士）は、民俗学で著名ですが、数多い著作の中に、『石の民俗』や『大井川』があります。



と得意になつてやりました。

泥流の中で泳ぐことは一つ間違えば大変です。下流の岩場の渦巻きに行かない前に泳ぎ切らなければなりません。中学一年生の頃、一緒に泳ぎに来ていた一年先輩がこの渦巻きに巻き込まれて亡くなりました。

一年生の頃、一緒に泳ぎに来ていた一年先輩がこの渦巻きに巻き込まれて亡くなりました。大人の人達が必死に人工呼吸をしている姿が今でも脳裏をかすめます。



お茶と文化寸感

『研究会と『抹茶通信』のこと

山田新市



られたのを思い出す。

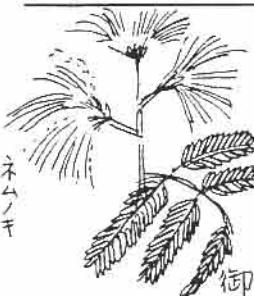
しかし、お茶について言えば、まず第一に茶樹の改良・茶園の造成方式からして、すでにゆるぎない「文化」と考えるべき

であろう。自生の茶が日本にあったかどうか

は、おくとしても、日本の茶の生産分野では、なかかわね茶若錦を見に寄った。「フォーレ」というカタカナ語と「若」という漢語とを共存させたこの名前には、良かれ悪しかれ、現代のある種の文化状況が反映しているのだろう。感想がなかつたわけではないが、ここではむしろ標題について優先したい。あとで掛川の「こだわり」にも寄ったが、地場產品であるお茶の扱いということも含めて、私には、茶生産と文化のかかわりをどう考えるかという、この方が関心が強かったからである。ところどその「文化」という言葉は、茶の関係では「お茶の文化」などという言い方で使われることが多い。しかし、お茶の文化という言葉にはかなりアジーなどころがあつて、その意味を特定するアフターが見えていいと、なかなかみようがないところがある。もひとつ「文化」という言葉 자체が、日本の近代では語源的に意味を捨象した言葉として成立させられたから、無理もないと言つてしまえば、それだけだが、お茶のかげで「お茶の文化」とは「茶の湯」のことだと思い込んでいる人たちが今でも少なくないようだ。何年か前、あるところでお茶の文化が京都にはあるが、静岡にはなぜか」とたずね

茶樹そのものの改良が行われてきているだけでなく、茶園でも株仕立てから畠仕立てへという日本独自の造成方式が開発されてきている。そしてどんな樹木でも春にはれば必ず出す新芽の一つに過ぎないチャの芽に注目し、それをさまざまに加工して独自な飲料に仕上げるまでは、生産者の数を切れない英知が作用している。それは、実つて種をまき散らす、とて種の保存を果たすべきはすの禾本科植物（イネ科）の一種が、実つても決して種をまき散らさないイネにまで改良され続けてきた過程に匹敵すると言つてよいかも知れない。それを「文化」と言わないで、何を「文化」と言うべきだろうか。だが、それがお茶の文化のすべてだというわけではない。日本の茶は圧倒的に緑茶、それも煎茶だが、お茶の文化は、この日本でも緑茶関連だけではない、茶そのもので言えば、山陰の陰干し番茶は完全無加工の葉茶だし、かつては北陸一帯で作られ今では富山県で作られているだけの黒茶や、四国で今もわずかだけ作られている碁石茶は後発酵の茶である。茶の淹し方・点て方でも、実際に行われているのは煎茶方式と抹茶方式だけで、黒茶を使う富山県朝日町蛭谷のバタバタ茶も、陰干し番茶を使う出雲





ネムキ

のホテホテ茶も、琉球のフクブク茶も、すべて茶筅おがきを使う。その茶筅も蛭谷で使う茶筅は二連の小茶筅だが、琉球のは長さ一尺に近い大茶筅で、出雲のはその中間くらいの大きさである。お茶の文化という考え方には、ごく一部の人々の努力を別とすれば、実際には緑茶、それも抹茶一边倒のままで来ているといふべきであろう。先に引いた「静岡には茶の文化がない」というのは、煎茶地図の謂れのないコンフレックスとも取れるが、しかし、そのコンフレックスもまた、緑茶の優位という事情によりかかるかっていると言ふべきであろう。それを物語るエピソードはいくつもあるが割愛しよう。ともかく、いう事情によりかかるかいつまんで言えは、お茶の文化は、チャの葉を人間の食と健康に役立てようとする行為すべてについて考えられるべきだという、とにつけようか。

右に述べた意味も含めて、お茶の文化に関心を持つ人々とコミュニケーションする場を持ちたいと考え、「お茶の文化研究会」を呼びかけることにした。その手段としてこの春から「探茶通信」(旬刊)の発行を始め、今月第2号を発送したところである。A5判一二頁前後のささやかなものだが、「ふるさと通信」が紹介してくれるといふので、あつかましく原稿の掲載をお願いし、概要を左に記して関心をお持ちの方にお知らせする次第である。

『探茶通信』第1号では、新潟県糸魚川出身の詩人相馬御風が、昭和十一年に糸魚川で発表したエッセイ「タテ茶の風習」を紹介した。富山県朝日町蛭谷に伝わるバタバタ茶関係資料である。

第2号では、日清・日露両戦役の出征兵

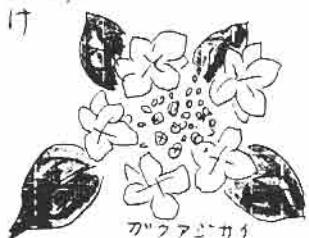
士に給与されたお茶を含む食料の資料を紹介した。全国的な飲茶習慣の定着の時期と契機を探る意図からの試みである。

3号では、日本の照葉樹林帯、とくに鹿児島県屋久島と紀伊半島における照葉樹林帯についてのレポートを計画している。日本における自生茶の存在をめぐる長年の議論へのアプローチの参考になればという意図である。ともかく一次資料の発掘・紹介と茶の文化の根本的な論議にあくまでこだわりたいと思う。

しかし、お茶の文化研究会は、まだ会員を得てない。事情があつて具体的な呼びかけをしていないからだが、その事情というのは、お茶の文化をより広い視野から考えようとしている何人かの人たちが、いわばお茶学会とも言つべき組織の結成を真剣に模索していることが分かったからである。秋には掛川でシンポジウムも予定しているのだが、その準備を含む予備的な会合もあり、ここしばらくは静岡との往復が頻繁になりそうだが、お茶の文化研究会の方はその進展とにらみ合わせながら、限定的な組織として加入を呼びかけ、会員および『探茶通信』の購読者による実質的な研究の組織として加入を呼びかけ。研究のための会合を開いて行くことになろう。なお『探茶通信』は單号五口口円、通年千号一五口口円と設定させていただいた。お問い合わせは郵便で、お申込みは郵便振替への振込で下さるようお願いしたいと思う。

〒175 東京都板橋区高島平2,333-1-7-10

お茶の文化研究会



カクアシーカイ

東京のかたすみから(14)
テレビの始めから終りまで

ヘリコプター 雜感

渡邊 實夫



秋も大分深まつた小春日和の一日。東京タワーの天ペんの回りを二、三度旋回してから、次は真横から手の届くような距離で、テレビ朝日のアンテナを確認した。
やがて「この辺でしょか?」とパイロットは高度をぐんぐん降下させながら聞く。トタン葺の色あせた小さな屋根が、見るまに近づいて来る。世田谷のわが家だ。

二階のバルコニーに干された洗濯物が揺れ始めたと思つたら、次の瞬間まわりの空地や庭のほうへ舞い上つた。「普通奥さんが出て来て手を振つて送るんですけどねえ」とパイロット。私は家の者に知らせてなかつた。隣り近所の知り合いの姿も見えなかつた。更に、「もういいですか。洗濯物が舞うと困りますから」「家屋に真上から突風をかけると、いろいろものが飛散したりしますからね。」「それに近隣の方に騒音であり迷惑をかけると悪いですからね。」などと矢つき早に云う。

私は自分の家の屋根を真上から、それも洗濯物に手が届きそうな近くから見たのは初めてで、子供のように興奮して「すごいもんだなあ」、「大丈夫かなあ」としばし我を忘れて見下していた。

パイロットは慣れたもので、こんな事は朝め(前日)を隠して飛ぶとよいんですね」と云つて再び

上昇し始めた。あつという間に我が家が見えなくなると、気を効かせて我が家へ案内してくれたパイロットはじめ、同乗者、報道デスクに改めて感謝の気持ちが湧いたものである。

これは私が報道の技術現場にいた約十五年前、ヘリコプター新型機が我が社に入つた折、東京湾沿いの「新木場」にある東京ヘリポートを飛び立ち、ハ王子方面へ性能テストと報道中継カメラの調子をみに行く途中のことであった。

秋のあまりの天気の良さに、「いい気分になつて」「私にサービスしてくれたものと思う。——ヘリコプターの数も少なかつた古き良き時代の一、二年を、本当はあまり感心した話ではないが思ひあつた。

それから数日間、家に帰る夕方になると、気の小さい私は少しはかり心が重かつた。隣り近所から何か云われていなかつた。やかましくてうるさいにそ、とか、マスコミの横暴だぞとか、又何かが舞い散つて紛失、破損したものがあつた、などと苦情がわが家へきてはないかと。

あれから十五年、その間この件についての文句は聞いていいない。おそらく近隣の方もあのヘリに私が乗つていたことなど、気付かなかつたのであろう。もつとも、私の家のすぐ近くに東名高速の入口があり、車の事故やら連休の渋滞やら又は暇ネタを撮るためにも、いつもヘリが飛んで来て旋回しているので、この近隣の住民達は少々のことは驚かないで

さて、比自様のご記憶にも新しいことだが、去る四月二十七日未明、長野の山火事取材中 テレビ信州と長野放送のヘリが衝突、記者・カメラマンら六人全員が死亡と云う、いにまく「墜落事故」が発生した。山火事の煙で視界が悪かつたと報じられた。

今まで、あまりにもヘリの事故が多かった・監督官庁である運輸省航空局の指導のもと事故対策はたてられている。しかし、ヘリ事故は急増の一途を辿り、上空からの取材合戦、一分一秒を争う過熱・過当競争に、驚鐘は鳴りっぱなしである。

私達の現場にもいろいろあつた。

* 悪天候下の「国際女子マラソン」の中継で視界がとれず、ランナーを追うため急降下し過ぎて、送電線に引っかかりそうになつたことがある。それでも当事者達は、航空法に決められている三百メートル以下に下つたとは決していわない。

長野の山奥の「長野岐阜富山連続誘拐殺人事件の死体遺棄現場撮影」で、マスコミ各社のヘリが集まり取材競争となつた。事件現場は上空から見ると一点・空の交通整理は困難を極めた。ヘリの旋回は普通右まわりと定められておりが、先を争ってルール違反が出、事故寸前の怖い思いをした、と云う報告を後で聞いたものだ。それでも、どのヘリも「報道協定」で定められている右まわり以外はしていない、と云うのである。

こう書くといかにも、ヘリそのものが危いものと思われるがちだが、実はヘリほど安全で便利な乗り物は無い。ヘリは比較的狭い場所で離着陸出来る。又、飛行中にエンジンが停止し落下し始めると、風を受けて羽(ローター・ブレード)が風車のように自然に回転し、落下傘のような役割を果して安全に着陸する。

又、速さの点でも一見のろそうだが、意外と優れていて、ちなみに大阪梅田から東京銀座まで一番速い交通手段は? と云うと、ジェット機で三時間、新幹線は三時間三十分かかるが、ヘリだと二時間で到着するそうだ。だから急病人の輸送、海難、山岳救助、現金輸送などに幅広く利用されている。

最初の頃のヘリでのカメラ撮影は搖れて苦労した。それでもどうにか撮影したビデオテープを毛布に包んで局舎の屋上をめがけて投落下させ、ニュースの時間に間に合わせたこともあつたと聞いた。今では防震装置ができたおかげで、皆様ご存じのように落着いた映像がとれるし、ヘリから撮影した映像は電波で一瞬のうちにテレビ局へ送られてくる。

そんなわけで、今やヘリは報道取材の最高の飛び道具となつてゐる。

一九九六年五月三日 記



夏が来れば思ひ出す
遠かの尾瀬遠いそら
みほしきのせのぞくても

あるやと夜話

へんにやくの花

原田耕作



大正年代、東北の蒟蒻栽培地を視察した代議士の一
行中、「あのぶるぶるした物がこの草の茎にぶら下つてな
るのか」と聞いた者があつたと言う。その様は実話が
ある。

蒟蒻は畑で栽培される時も加工されて全く形態が
変って食用になつてもコンニヤクと言う名に變りがない。
だから議員さんの質問は無理からぬものかも知れない
とも思うが何が何ではない質問と思う。

蒟蒻は東南アジアの原産で日本へ渡来したのは
縦文時代とも仏教伝来の際とも言われる。食べ始め
たのは江戸時代で昔から金玉の砂糖いと言られて來
た。では男だけ必要な食物かと言うとそうでは無い。
食物纖維のコンニヤクマンナンと言うものが消化されす
整腸作用があるから男女どちらにも必要な食物であ
ると言う。

蒟蒻はサトイモ科の草木で、サトイモ科の植物中最も
良く知れ渡っているものに、ヘビコンニヤクがある。ヘビ
コンニヤクの本当の名はマムシグサと言って茎に蠍の
紋様があるから名付けられたと言う。花苞も蛇が鎌
首を持上げた様な薄気味の悪い姿で、栽培される蒟
蒻も殆んど同じ様な花が咲く。

栽培される蒟蒻は食用だが、山野の蒟蒻は食べられ
ない。山野の蒟蒻即ちヘビコンニヤクの花は至る所に

あるから一般の人気が知っているか。栽培蒟蒻の花は殆ん
ど知られていない。なぜか。それは食用蒟蒻は子芋
が親芋からはなれて六年目になつて花が咲く。花が咲
くとその蒟蒻の一生が終るのである。花が咲くと玉がち
んでしまつて食用にならない。多くの農家で花の咲
く一年前(五年生)に掘りとつてしまつた。從つて花を
見ることが殆んど無かった。

蒟蒻の产地では一年子二年子と區別をつけて栽培する
からはつきり年代が判つていて開花前に掘り取つ
て売却してしまう。川根地方では自然に茶畠などへ放置
して置いたものに稀に花が咲くのである。めつたに咲かな
い蒟蒻の花が咲いたから何が怪事があるかも知れない。
と昔は神社に祈禱してもらつた家もあつたと言う。

蒟蒻の花が咲いたとてどうと言うことはない。蒟蒻の
花は咲くべくして咲いたのである。しかし私は昔の人が
蒟蒻の花をさうした理由があつたと思う。蒟蒻の花が六
年目に咲くという事を知らず稀に咲いたと言うこと。
その姿が気味良いものでなかつこと、その上最も
大きい理由があつたと思う。

それは蒟蒻の花がこの世で最悪の臭みを持つている
ことである。蛇蒟蒻の花は栽培こんにゃくと同じ様な花
であるが全く匂いがない。だが栽培蒟蒻の花たらや、嗅
けば己のはらわたも腐つてしまいそうな悪臭がある。私は鉢植えにして花を嗅かせた事がある。或る人に、と
ても良い匂いだかう嗅いでみよ、と言つた。嗅いたその人
は人をだまされたと言つて真剣に怒つた事がある。

私は大井川奥地の山林労務者が事故死して職業上
何人かの検死をした事がある。目や鼻耳からぼろぼろ

虫が出てくる死体でも、蒟蒻の花の様な悪臭があつたとは思ひなかつた。

蒟蒻同族のサトイモ科の植物はヘビコンニヤク、浦島草などが中川根の山野に沢山四月五月に花を咲かせる。然し食用蒟蒻の様な悪臭のある花は一つも無い。植物図鑑 静岡の草花、四季の花等いろいろ調べてみたが蒟蒻の花の臭気について書いたものは一つも見当らなかつた。なぜだろう、おでん、肉鍋、田楽、万人に親しまれているこんなにやく料理の張本人の生体蒟蒻の花に如何なるわけあって造形の神様はある様な悪臭をつけたのか實に不審である。ヘビコンニヤクは別名蝮草、県下の一部にヘビのオッカサンという所がある。テンナンショウと言つて、食用コンニヤク、山野のコンニヤクを総称して呼ぶ本当の名称であると言う。

かる里夜話 第十四話 終り



ウラシマリワ

マムシブサ
(ヘビコンニヤク)

実は、四月下旬、財団法人住友生命健康財團で企画している「生きる・こころと健康」というテレビ番組が取材に来て、六月一日(土)(中部地区の一部は八日)TBS系全国ネットで、「中川根ふる里通信」発刊のことが放映されました。

会員の皆様に事前連絡するすべもなく、当日をむかえに次第です。早朝の地域が多く、視聴率も高くないとの事ですが、昭和六十年に設立されて十年目を迎えた「生きる」と言う番組はなかなかよい番組です。毎週土曜日が放映日ですから、又機会がありましたら、ご覧になつて下さい。おすすめします。

どの様な内容かと申しますと、二時間弱、私が五十余年生きた様々な出来事のおしゃべりの中から集約して十五分弱にまとめたものでした。主にかる里通信の事です。

「松谷みよ子さんの童話にあるよね! セ花いづばいになーれ」と子供達がひまわりの種を風船に付けて飛ばしてやがて、野山に根付き、ひまわりの花を咲かせる。私も山の風にのせて、かる里の香りを届けたい!」

生きるの番組は、もっと素晴らしい人生の人達がいらっしゃいます。私は川根弁丸出しと言つたところですが、「それでもよいで」と答えて下さる方々のもとへ、風にのせて、かる里通信をお届けしたいです。

七月三日、静岡新聞 読者のことば
に、原田さんの健筆があつた。
「お君」(同級生のこと)でした。
さすが、と感心しました。

延伸

七月三日、静岡新聞 読者のことば
に、原田さんの健筆があつた。

定期購読のお願い

中川根ふる里通信は有料発行です。

1部 テ共 150円

皆様の定期購読がふる里通信の発行を支えます。年間4回の発行(季刊誌)を予定しております。今回で購読の切れる方初めてふる里通信をご覧になられる方には郵便振替用紙を同封致しますから引き続きご購読をお願いします。

年間予約 600円 (150円×4回)のご送金をおすすめしますが、3年分位(1,800円)でもお預り申上げます。

購読を止めた時や住所変更のおりも是非ご連絡下さい。

郵便払込通知票 00870-4-81556

加入者名 中川根ふる里通信係

ふる里通信に関する問い合わせ先・及
発行責任者 テ428-03

静岡県榛原郡中川根町上長尾 859-6

小沢節子

TEL 0547-56-0015

いつの間にかアシサイの花が満開になつていま
す。赤ヤシオも白ヤシオも、とくに花が咲かなかつた。自然の暦は夏までには遅れを取り
もじしきうな気配です。こちらも過張って
夏の号は夏の終りまでにお届けしたいと
思っております。徳山下泉間水辺ウォーキン
グの事、千頭営林署植樹祭のこと、奥大井の
こと次回に移ります。皆様のお便りお言葉
まであります。今夏は是非、緑豊かな川根
の郷へいらしゃって下さい。

緑豊かな川根

今春 大井川や川根路奥大井など、ふる里周辺のテレビ放
映が何回かありました。皆さんご覧になられましたか?

* NHKは五月二十七日～三十一日 正午すぎ、昼時日本列島に

関区→大井川町まで新緑の大井川を上流から下流へ、下って

行きました。お茶博士のお一人の内海桂子さんが訪問者で、

中川根では茶処藤川の高田農園と最新ハイテク管理のス

野脇製茶工場が舞台となりました。

* TBS系朝七時半より「旅わくわく」六月二十二日放映は

新幹線掛川駅発→御前崎→大井川漁港→島田蓬萊橋→

S.L.→千頭で降りて山の茶畠→井川線にて大井川上流と

岡本麗さんの大井川 潤る旅。これは久野脇の諸田信夫さんや

茶娘さん、諸田さんの加工場でお茶の葉の佃煮「食べ茶王」

など紹介されました。

NHKは生放送、おひにじいスタッフ陣、TBSも五月下旬
の録画撮りで、新茶、新芽としては、コワッパになつてしまつて大変苦労した様です。

* 今年は宮澤賢治生誕百年、大井川、S.L.駅など、映画ロ
ケも行なわれた様です。何でも笠間渡駅が青森駅と
化し、八千草薫さんら有名俳優が来たとの事、失恋
の北への旅立ち(春の修羅)かな?と想像したりしていま
す。出来得る事なら、賢治の様に生きたいと願つて来た
者として今一度、心を見直す年にしたいです。

四十号より、ふる里通信会員名簿を載せております。
郵便番号の順になるべく編成していますが、コンピュータ

でないので、完全ではありません。意外と近所に同郷の人
川根を好きなんだな、と思われたり、同郷会員ヒ

に使いいただけならうれしいです。なお、重
ねて言いますが、住所発表を控えたい方はご

一報下さい。全員記載までに七号位になります。
お便りいただけならうれしいです。なお、重
ねて言いますが、住所発表を控えたい方はご